

## 特別賞

### せみしぐれ

高陵中学校 大竹 朱音

夏休み。早朝から騒がしく鳴いているセミの声で、徐々に目が覚めた。ミンミンや、ジリジリジリ等、様々な種類のセミが同時に鳴いている。これを「せみしぐれ」というのだそう。せみしぐれで起きた日は、目覚まし時計に起こされた日よりも、はるかに心地よく一日のスタートを迎えられる。

私の家の近くには、とても大きな公園がある。緑が豊かで、リスを見られることがあるくらいだ。小さいが、川も流れているし、カメや鯉がいる池もある。私は、歩道ではなく、この公園を通って買い物に行くことが多い。どうせ歩くのなら、緑を眺めながらの方が好きだからだ。この前、久しぶりにその公園を通った。歩いていたら、大きな木の根元の地面に、セミの抜け穴（セミが地面から出てきたときにあいた穴）がぽつぽつぽつと空いているのを見つけた。この他の木でも、セミの抜け穴はあった。その後、植物の葉や、さくのロープに、セミの抜け殻がくっついているのをたくさん見つけた。そのようなことをしてうちに、ここはセミたちが生まれ、そして生きている大切な場所なのだ、と強く感じさせられた。もちろん、他の生き物にとってもそうだろう。

もしも、この公園がなくなってしまうたらどうだろうか。聞こえてくるせみしぐれは激減することだろう。私の近所が、自然豊かに感じられるのは、この公園のおかげだと思う。この公園がなくなってしまうたら、残っている植物は、植えこみや、ほんの少しの街路樹だ。これではセミはおろか、様々な生き物たちの住む場所、生まれる場所がない。

だから、そんなことがないように思うが、いつか、自分の便利さを求めた人間たちにより、壊されてしまうのではないか、という不安がある。これ以上、人間の欲を重視して生物の生きる環境を壊すべきではないと思う。その自然に関わっている生物たちの生命の保障がないのであれば、破壊していく行為はやめるべきだと思う。そして気付くべきだ。自然がなくなり、住む場所を奪われた動物たちが行きつく場所は、私達の住む町や、住宅街等であることを。もしそうになったら、邪魔だ、迷惑だ、等と言って、またもや、人間の欲でその動物たちを追い払ったり、処分するつもりなのか。そんな悲惨なことは、絶対にあって欲しくないと思う。

まずは、一人一人が身の回りの小さな自然から、大切にしていけることが、重要だと思う。私の場合は、家に植えてある、びわやいちじく、あじさい等を大事に育てていきたいと思う。そのようにして、身近なところから、保護していくことが、生き物の生存に不可欠なことであると思うからである。十年後、百年後、千年後も、せみしぐれで気持ちよく朝を迎える人がいる。そんな環境がある地球であって欲しいと私は思う。